

13. 筋骨格系および結合組織の疾患

文献

勝見泰和. 高齢者の筋・骨格系の痛みに対する鍼灸の除痛効果の評価. *厚生労働科学研究費補助金報告書* 2002: 44-50. CENTRAL ID: CN-00987146

1. 目的

高齢者の慢性腰痛に対するトリガーポイント鍼治療と背部経穴への鍼治療の効果の比較

2. 研究デザイン

ランダム化比較試験 (封筒法) (RCT-envelope)

3. セッティング

明治鍼灸大学附属病院整形外科、京都、日本

4. 参加者

明治鍼灸大学附属病院整形外科外来を受診した 65 歳以上の外来患者 12 名

5. 介入

Arm 1: トリガーポイント治療群 6 名 (平均年齢 70.2±2.9 歳)。ステンレス製ディスプレイブル鍼 (0.16×40mm、0.18×50mm) を、最大 18 カ所のトリガーポイントに 10 分間置鍼。週 1 回の治療とし、治療期間と無治療期間を 3 週ずつ繰り返した。

Arm 2: 経穴治療群 6 名 (平均年齢 73.3±6.9 歳)。ステンレス製ディスプレイブル鍼 (0.16×40mm) を、慢性腰痛に効果的とされる背部の経穴(腎俞(BL23)、大腸俞(BL25)、環跳(GB30)、上髎(BL31)、中髎(BL33)、秩辺(BL54)、委中(BL40)、崑崙(BL60)、陽陵泉(GB34))に 10 分間置鍼。

6. 主なアウトカム評価項目

腰・下肢の痛みに対する Visual analogue scale (VAS)、疼痛生活障害評価尺度 pain disability assessment scale (PDAS)、Roland Morris Questionnaire (RMQ)。

7. 主な結果

VAS より、トリガーポイント治療群で経穴治療群と比較して痛みが軽減した。日常生活全般の QOL を示す PDAS は両群の差がみられなかった。腰下肢痛に関連した QOL を示す RMQ は、両群とも改善がみられた。いずれの指標も P 値は記載されていない。

8. 結論

高齢者の慢性腰痛に対するトリガーポイント鍼治療は有効であり、腰痛に有効とされてきた経穴を用いた治療よりも短期的に治療効果を出すことができる。

9. 鍼灸医学的言及

障害筋を特定しその筋上に存在するトリガーポイントを治療点とする。

10. 論文中の安全性評価

記載なし。

11. Abstractor のコメント

本研究発表はトリガーポイント鍼治療の有効性を示す貴重な資料である。さらにこれまで腰痛に対して有効性が示されてきた経穴を選択した場合よりも短期的かつ、より優れた効果を引き出すことができることを示唆しており、鍼灸治療の可能性を広げる貴重な資料となりうる。しかしながら肝心の有効性の評価に関して統計的結果が示されていないこと、適切なランダム割付が行えたかどうか、割付患者の遮蔽、治療効果評価者の遮蔽などの点において不明瞭なことが多く、本研究結果が確定的な結論となりえないことが残念である。今後さらなる良質のデザインによってトリガーポイント鍼治療の有効性が示されることを期待する。

12. Abstractor and date

保坂政嘉、大川祐世 2016.9.29